

Chemical Bonds 支部／教育・普及部門だより

関東支部発

第39回化学クラブ研究発表会

関東ではちょうど桜が満開になった2022年3月28日、化学クラブ研究発表会を開催することができました。本会は日本化学会関東支部が主催し、関東一円の高校生が集まり、日ごろの研究成果を発表する機会となっています。コロナ禍で思うように研究実験ができなかったことと思いますが、斬新でチャレンジング、そしてレベルの高い研究成果を拝聴できました。第39回となる本年度も昨年度に引き続き、オンラインでの実施となりました。100名近い参加者のもと、口頭発表26件、ポスター発表29件に加え、エキシビジョン発表（静岡県立清水東高等学校・東海支部）が行われました。

個人的に印象に残った発表を2件ほど挙げさせていただきます。茨城県立竹園高校の「バニリン酸イソプロピルの合成 part 2」は、抗炎症剤であるバニリン酸イソプロピルを5段階で合成する研究でした。もう一つは、開成高校の「可視光照射によるハロゲン化アリアルからのアリアルジカルの生成」でした。メタルフリーのクロスカップリン

グ反応を追求し、反応メカニズムの提案まで行っていました。双方とも、大学の卒業研究としても遜色のないレベルであると、驚きを隠せませんでした。

閉会式では、大塚英幸先生（東工大、関東支部長）にお言葉をいただきました。研究はうまく行くことばかりではなく、うまく行かないときの方が多い。そんなときこそ、人間は考える力が磨かれ進化し、研究は発展するのだ！とお話されました。今回、表彰式で映画「炎のランナー」のテーマソング「ナクソス・クラシック・キュレーション」を流させていただきました。本映画ですが、舞台は1919年のイギリス、主人公の2人がオリンピックで金メダル（陸上競技）を取るまでのサクセスストーリーです。ほぼ実話とのことなのですが、様々な時代背景と困難を乗り越えて、金メダル獲得という快挙を成す姿を描いた作品だそうです（すいません、映画を見ていません）。炎のランナーのように、また、大塚先生のお話のように、今回参加された若い皆様が、これまで以上に化学に興味を持ち、研究を通して成長し、世界の化学をリードする人材になることを期待しております。

（幡野明彦 芝浦工業大学）

